



## 第2章 人々の暮らしと自然

### さどがしま

# 佐渡島の人口



佐渡市の人口は、現在およそ6万2000人。今から60年ほど前の1950（昭和25）年には、およそ12万5000人でしたが、このころをピークに人口は減り続けています。

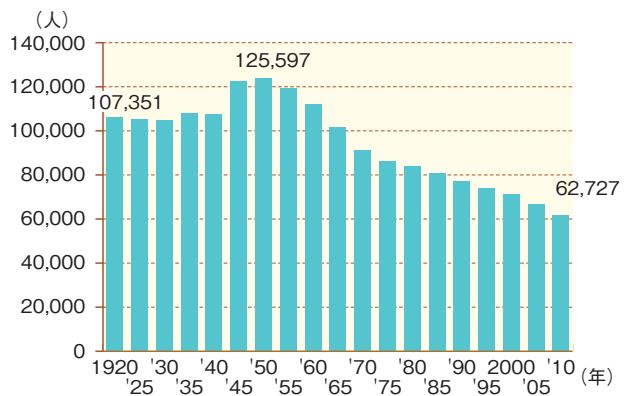
人口が増えたり減ったりすることは、わたしたちの生活や、佐渡島の環境にいろいろな影響をおよぼします。

ここでは、佐渡市の人口がどのように変化してきたかをみてみましょう。

### 佐渡市の総人口のうつりかわり

佐渡市の総人口がこの90年間で最も多かったのは1950（昭和25）年で、12万5597人でした。グラフでわかるように、このころから現在まで、人口は減り続けています。

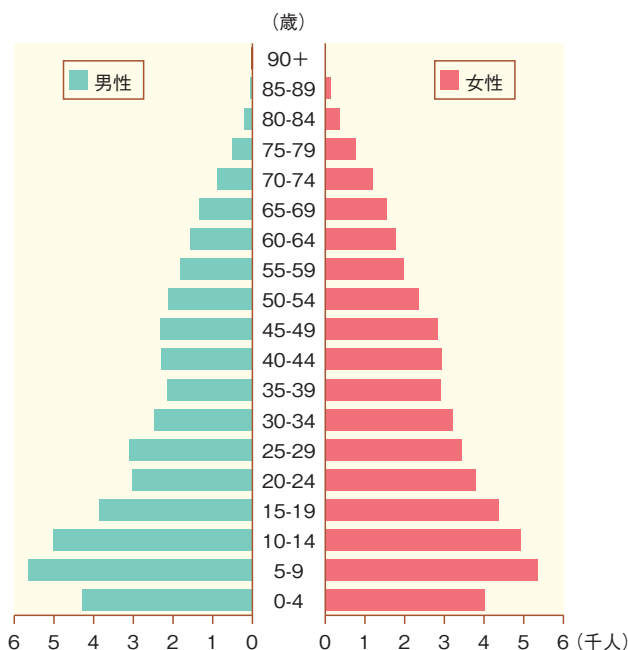
また、総人口が減少すると同時に、年齢別の人口構成もこの50年間で大きく変わりました。人口ピラミッドでみると、1955（昭和30）年には子どもや若い人の方が多かったのが、最近では年齢の高い人が多くなり、若い人が減っています。



佐渡市の総人口のうつりかわり（1920～2010年）

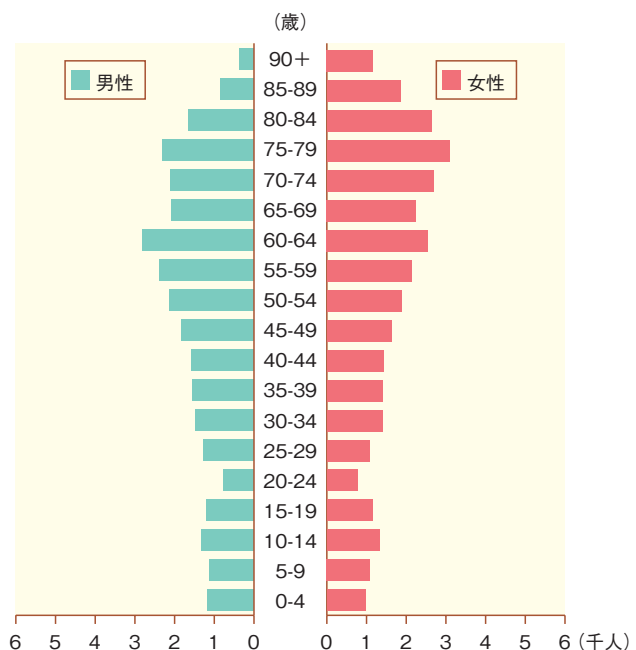
資料：総務省統計局「国勢調査」

1955（昭和30）年



佐渡市の人口ピラミッド

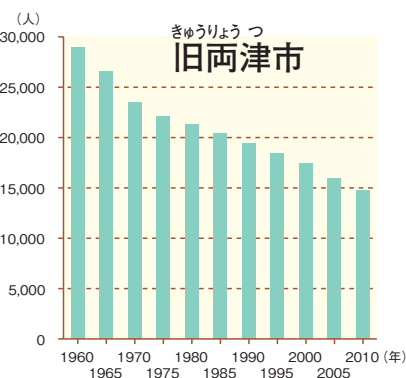
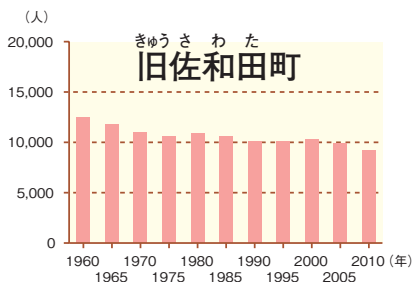
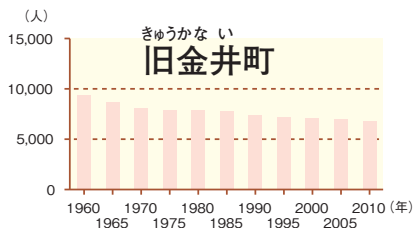
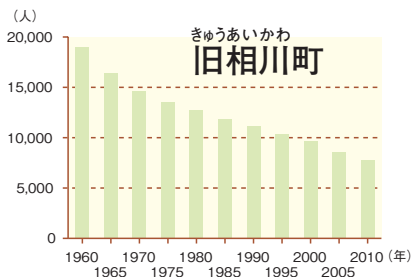
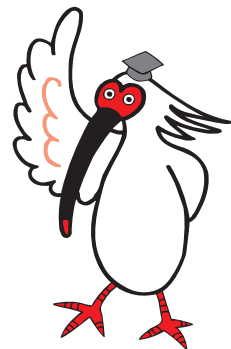
2010（平成22）年



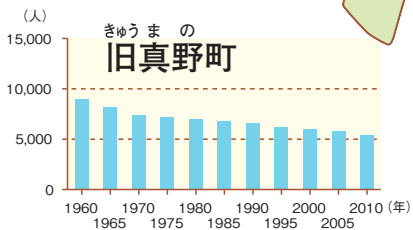
資料：総務省統計局「国勢調査」

# 旧市町村ごとの人口のうつりかわり

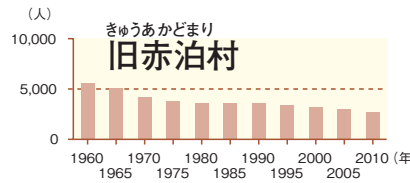
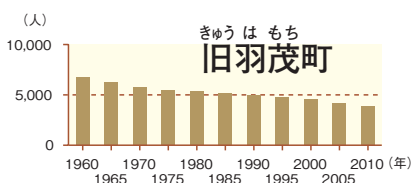
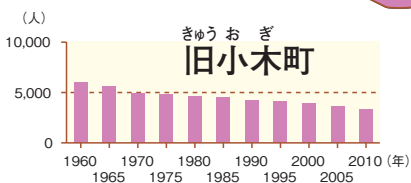
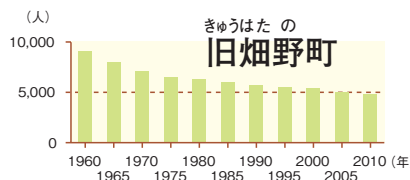
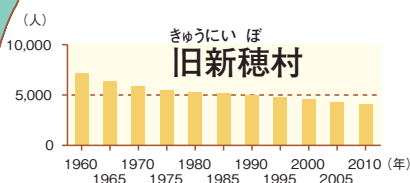
佐渡市は合併する前は10の市町村に分かれていたんじゃ。  
みんなの住んでいる地域の人口はどんなうつりかわりをしているかな？



佐和田は増えたときもあつたのね。



相川や両津は減り方がずいぶん大きいね。どうしてだろう？



# 佐渡市は高齢化の先頭にいる!?

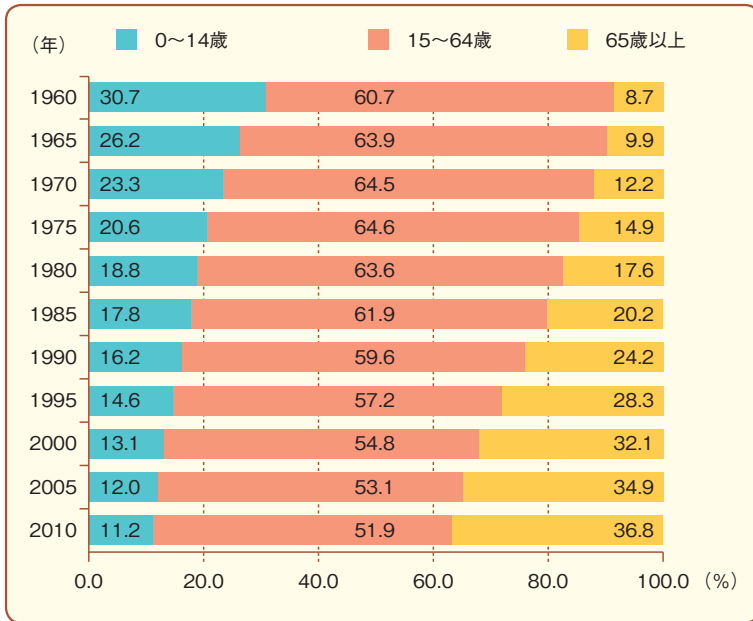


## ■ 少子高齢化って何?

佐渡市は、人口の減少とともに、「少子高齢化」に直面しています。少子高齢化とは、子どもや若い人の世代が少なくなり、65歳以上の高齢者が多くなることです。「佐渡島の人口の割合のうつりかわり」のグラフでわかるように、0～14歳の人口が占める割合が、50年間に半分以下まで減り、逆に65歳以上の人口がおよそ4倍にふくらんでいます。

佐渡島の人口の割合のうつりかわり

資料：総務省統計局「国勢調査」



## ことば



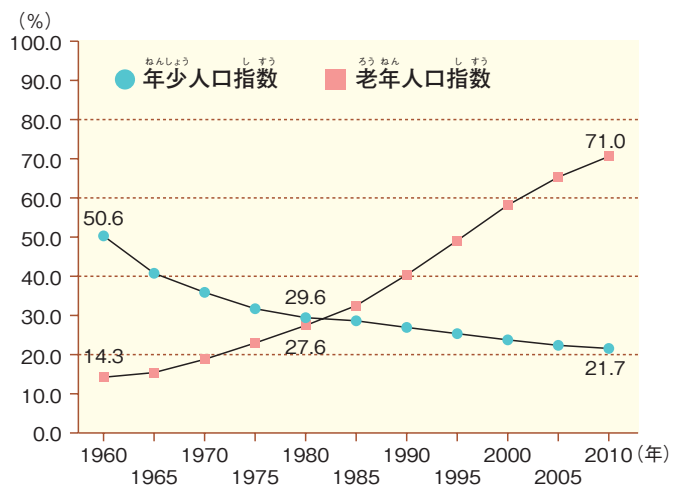
### 年齢3区分

左のように、人の年齢のまとまりを三つに区分けすることを、年齢3区分といいます。0～14歳を年少人口、15～64歳を生産年齢人口、65歳以上を老年人口とよんでいます。生産年齢人口に区分される人のことを「現役世代」とよび、一般的に仕事についてはたらいっている世代のことを意味しています。

## ■ 佐渡島の高齢化はどのくらいすすんでいるか

右のグラフは、現役世代の人口が100人いたとして、年少人口と老年人口がそれぞれ何人いるかの割合を示したものです。年少人口は1960（昭和35）年から現在まで減りつづけ、老年人口は増えつづけています。2010（平成22）年には老年人口は、現役世代100人あたり71人にまで達しています。つまり、現役世代の人5人が高齢者4人を支えていかななくてはならない時代がすぐそこまできているのです。

老年人口の指数は、日本全国で36.1%、新潟県で43.1%で、佐渡市は全国的にも高齢者の割合がとても高いということになります。



佐渡市の人口指数のうつりかわり

資料：総務省統計局「国勢調査」

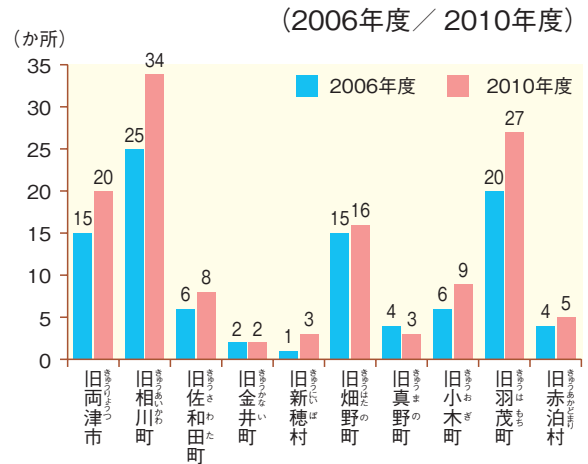
## ちいき 地域がなくなる!?

高齢化がすすむと、人々の暮らす地域のかたちを大きく変えてしまいます。そのあられのひとつが、「限界行政区」の増加です。限界行政区とは、65歳以上の高齢者の割合が、地区の人口の50%を超えているところを指していて、佐渡市全体で2010（平成22）年度には127か所に達しています。

グラフを見ると、旧市町村のなかで、相川の限界行政区の数が多いのがわかります。相川では、すべての地区の3分の1近くが限界行政区となっています。

高齢者ばかりが残された地区では、地域の人々が力を合わせて生活していくことすら難しくなっているのです。

きょう 旧市町村別の限界行政区の数



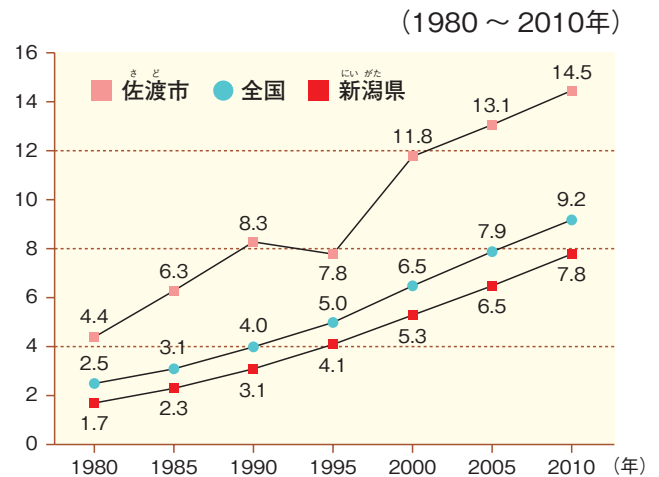
資料：佐渡市地域振興課

## 家族のかたちが大きく変わる

折れ線グラフ「高齢者単独世帯の割合」は、65歳以上の人がひとり暮らししている家の割合を示したのですが、新潟県全体や日本全国の平均に比べ、佐渡市ではたいへん多くなっているのがわかります。また、佐渡市だけをみると、およそ30年前と現在を比べて、3倍以上にふくれ上がっています。

地域だけでなく、わたしたち家族のかたちを大きく変えていくことになり、たいへん深刻な問題です。

こうれい たんどくせたい わりあい 高齢者単独世帯の割合



資料：総務省統計局「国勢調査」



人口が減って、高齢化がすすむことが、佐渡島の未来にどんな影響をおよぼすのか、みんなで考えてみよう。

